



平和旬間報告

誰も置き去りにしない世界へ

コロナウイルス感染拡大で緊急事態宣言が出され、昨年と同様計画していたミサ、企画が中止に追い込まれた。しかし今年も小教区の皆さんはあきらめることなく工夫を凝らし、その中で期間前、期間中、それぞれで取り組める祈りを配布したり、平和へのメッセージを作成したところが多く見受けられた。旬間中だけではなく日々の生活のなかで平和について考えたいという声も多く寄せられた。

姫路地区西ブロック共通テーマ 「コロナ禍と主の平和」

◆〈西〉網干・たつの教会 8/1(日) プレーズ神父による講話を聴き、1%の富裕層の富が貧しい人々を圧迫することに加担しないようにと思った。コロナ禍で人とのつながりが断たれている中、平和の日の教皇メッセージを熟読して実践に努めたい。



◆〈西〉相生教会 8/1(日) 大久保神父からお話を聴き、その後テーマに即した分かち合いを行った。ミサ参加者の約3/2が集い、どのグループも予定した時間を過ぎてても活発に分かち合った。

◆〈西〉赤穂教会 8/8(日) 事前に祈りの手引きを配布。絵本「せかいじんけんせんげん」を使って学んだ。ミサではマルゴット神父から戦争体験とコロナ禍に関する講話を聴いた。戦争では家族が引き離され、コロナに感染した人も誰にも会えずに亡くなった。人間同士の絆を大切にすることが私たちにできる主の平和であると話された。



◆姫路教会 8/8(日) 平和への思いを忘れずに過ごすためメッセージカードを募集。コロナ終息、ミャンマーの平和と自由、外国人労働者や難民と共に歩む社会の建設、この世界で協力しあえるようになど、切実な祈りが多くあった。身近な人の助けにとコミュニティーパントリーも開催した。



◆仁豊野教会 8/1(日)・8(日) 「子どもに伝えよう、平和を！」核兵器廃絶の思いを毎年継続し、アニメ「つるにのって」を上映、「あなたにできる6つのこと」を作成し朗読。教会学校からも子ども、保護者が参加。置き去りにされている人への思いや祈りを短冊に記した。



◆佐用教会 8/14(日) 今年も「平和の鐘つき運動」に参加。8/6、9、15の3回、平和を願い教会の鐘を鳴らしている。核なき世界基金設立1年に際して広島本部事務局の活動などをまとめた「しおり」を作成。8月初旬に信徒へ配布した。

◆加古川教会 8/8(日) 「誰も取り残されないために互いに助け合う努力をしよう」戦争反対、生活弱者への思い、コロナ終息への願いが「平和への祈りのカード」に寄せられた。アルマンド神父は広島・長崎の原爆の日を忘れず、戦争犠牲者の尊い命を思い起こすように呼びかけた。



◆洲本教会 8/8(日) 折り紙に平和への願いを書き、ハトやツルを折り、ミサの共同祈願では、世代や国籍の違いを越えて戦争やコロナ禍などについての中で取り上げ祈った。



◆芦屋教会 8/7(土) 芦屋キリスト教協議会主催「平和への祈り」に参加、インターネット配信した。76年前の悲劇を忘れず、戦争をしないだけでなく、命を喜んで生きている状態が平和であることを伝え広めたい。教会で企画していた「火垂るの墓」の朗読劇は延期。



◆仁川教会 8/7(土)・8(日) ミサ前に「平和旬間」の意義と教皇ヨハネ・パウロ二世の広島での「平和メッセージ」を社会活動委員が朗読。酒井俊弘司教司式によるミサ後に「あなたは誰も置き去りにしていないと言えますか？」と8つの問いかけを行い、アシジの聖フランシスコの「平和の祈り」を祈り、「平和の道具」になるための回心と決意をした。

平和旬間日記 夙川教会8/6(金)～8/15(日)

旬間の10日間を一人ひとりが自分のこととして平和について考え、祈り、願い、行動するために、平和旬間日記に取り組んだ。大人から子どもまで、また教会に来られない方も参加できる企画。長崎大司教区の「世界平和のためのロザリオの意向」を参考に日曜学校リーダーが作成。司祭のアドバイスで、樹の幹だけを描いた大きなボードを祭壇前に設置、平和旬間が終わる頃には、繁く重なる葉のように300枚近いメッセージのピースツリーが出来上がった。日曜学校では保護者とリーダーで共有しているアプリに「平和旬間日記掲示板」を設置。各日のテーマを毎日投稿することで互いを支え合おうと呼びかけ、子どもたちは夏休み期間中の絵日記のように、自分たちが考えたことや願いを文章や絵に書いたものを投稿した。



◆伊丹教会 8/15(日) 信徒が書いた「平和への祈りと願い」をミサの中で捧げた。8月1、8、15日の3回は共同祈願で平和のための祈りを加え祈った。亡くなられた方や平和への思いを形に表し、奉納するなど工夫をした。



◆武庫之荘教会 8/8(日) 「平和」「争いをなくす方法」「すべての人が平等に生きられる世界」について考え、「平和旬間」に我々信徒が考えるべき課題について、デンニ神父が編集したビデオを鑑賞した。映像のインパクトは凄まじく、何を伝えたいのかがよく分かり、各々に気づきを与え、考える端緒となった。



◆尼崎教会 8/8(日) ミサ後、教皇来日前の平和メッセージ動画(カトリック中央協議会の許可を得てヴァチカンのホームページよりダウンロード)を視聴。「平和を祈るロザリオ」パンフレットと動画の邦訳をプリントして各自持ち帰り、各家庭で再度振り返った。



北地区共通テーマ「はじめのいっぽ 愛しケアする」
8/14(土) 平和祈願ミサ(一般非公開) ネット配信
松浦 謙神父司式

◆大東教会 難民申請中のミャンマー出身の青年を招き、報道が少ないミャンマーの現実を聴く企画を予定。遠い国の出来事ではなく、教皇が述べた「私達が互いにケアする兄弟姉妹からなる共同体」を築くための具体的な努力を皆で考え、「平和の祈り」のカードに各々の決意、思いを書き込むことにしていたが中止となった。

◆枚方教会 ペシャワール会 DVD 上映。当会の活動は人としての素朴な思いから始まった。相手の宗教、文化、生活を尊重し、現地の人が平和に生活できる条件を再建する中で、共同体が復活し、弱者が保護され、傭兵は農民に戻った。遠い国の話でなく、生きる姿を観て学び、祈り、自身を考えること、足元からの気づきとしてペシャワール会を取り上げた。

◆香里教会 8月8日のミサの中で共同祈願として祈る予定だったが、ミサが非公開となったため中止。平和旬間中皆で同じ祈りをした。北地区として平和祈願ミサをネット配信できた。配信を見られる環境ではない人のために小教区で集まって参加できればよかった。教皇メッセージについては学習会や分かち合いを行いたかった。

◆大阪梅田教会 祈りのカードを作成し、各家庭に送り祈った。ネット配信でも祈りを捧げた。平和旬間の意味をホームページにのせ多くの人に知らせる努力をした。

◆関目教会 テーマ「私たちは何をケアできますか？」8月14日に日本における難民の現状を聴く予定であったが、中止となった。集えなくても個人でもこの期間は特に平和のために祈った。

◆門真教会 門真市内の子ども支援を7月より開始。門真市に2回寄付物品を届けた。他教会からの寄付もあり、少しずつ支援の輪が広がっている。今後も定期的に支援を継続。「平和旬間の祈り」を各小教区で個別に行った。

◆今市教会 コロナ感染拡大の為、昨年より出来なかった福島支援(お米・果物販売)と共に、教会での平和の祈りを作り、ミサで捧げることを企画したが出来なかった。

◆住之江教会 8/8(日) 「入管法と難民認定制度を学び考え行動しよう」をテーマに、オンラインで入管法「改正」案についての講話を聴き、ビデオ視聴、グループミーティング、ミーティング結果発表、祈りの約2時間のプログラムをおこなった。会議に参加する方法がない高齢者は感染予防徹底の上、人数制限してテレビで視聴することにした。



◆枚岡教会 8/15(日) グループごとで、テーマに添った祈りの寄せ書きをし、祈り、ミサで奉納する予定だったが、集うことができず、1グループが、聖堂で聖書朗読、平和の祈りの共同祈願。集い祈れなくても、行事に参加できなくても、おかれた場で祈り、できる形で心を合わせる工夫をして平和旬間を考えたい。

◆玉造教会 8/6(金)～20(金)「愛の始まりは関心」難民について資料を作成し、配布する計画だったが、中止。司祭より信徒に向けてメッセージを送った。知る、関心を持つ、考える、行動することをねらいとしていることを伝え、作成した祈りも合わせて送った。

◆生野教会 8/1(日) 平和とはなんですか? 「平和でないとはどういうことですか?」思うことを自由に掲示板に書き込んだ。全世界が助け合う時なのに争いごとはばかりしている。一人一人が平和について考え、神様の道具として行動しなくては。といった回答があった。



◆岬教会 企画通りの実施はできなかった。予定していた司祭とシスターによる講話をまとめていただき、教会の広報誌「るどびこ」に掲載。各自、各家庭で分かち合い、黙想するため全家庭に届けた。企画していたDVD「マリア」の鑑賞は待降節に延期。



◆泉佐野教会 8/8(日) 教皇フランシスコがイラクを訪問し「ともに平和の道を歩もう」と呼びかけた事についての感想を発表。10か国語でアヴェ・マリアの祈りを1回ずつ、また「東京教区2020平和旬間の祈り」も唱えた。子どもたちも「平和について」話し合い、平和のための行動をカードに書き「しあわせの木」を完成させた。



◆貝塚教会 8/8(日) 旬間行事を行うことが出来なかったが、広報誌を通じて、今年の平和旬間のテーマに基づいた内容を個々に知ってもらい、過ごしてもらう事が出来た。

◆熊取教会 8/8(日) 「神さまからいただいた一人ひとりのかけがえのないのちを守るために」に関連することばを入れたポスターを作成し掲示しミサ後にアンケートを実施。寄せられた回答から平和祈願ミサでの共同祈願を作成しその祈りをハガキに記して各家庭に送付。平和の使徒としての今後の行動につなげたい。



◆紀北 8/15(日) 原爆が投下された6日と9日は当時を振り返り、ミサを捧げた。ミサ後古屋聖堂では2名の方の幼少時の戦争体験談を、屋形町聖堂では、小中高生に向け和歌山空襲の体験談を聴き、身近な地域の話で映像が浮かんだ。



◆新宮教会 8/6(金)・9(月)・15(日)

原爆で尊い命を奪われた人々、原爆症によって過酷な人生を生きざるを得なかった人々のために「核の無い平和の実現」を祈り、戦地や空襲で亡くなった人々、ミャンマーやアフガンの人々、コロナ感染拡大で自宅などで待機中に亡くなった人々のために祈った。原爆の語り部小崎登明修道士の資料を配り、DVD鑑賞をした。



◎詳細は冊子にして後日各小教区へお送りいたします。